



東京の私立保育園のあゆみ



理事 福井 徹人

江戸川区、ルンビニー保育園園長、民保協理事の福井です。私の園は本年70周年を迎えます。昭和27年設立の認可私立園です。現在は社会福祉法人ではありますが、設立当時は寺のお堂を改築し保育室にしていた農村地域の小さな寺の小さな保育園でした。

先日、江戸川区認可私立保育園園長会の役員さんから貴重な冊子をいただきました。それは、昭和55年（西暦1980年）に発刊された『江戸川区私立保育園五十年史』江戸川区私立保育園々長会編であります。発刊が昭和55年でありますので、その50年前からの江戸川区の保育をまとめた記念誌でした。本日はその一自治体行政区の保育の歩みを会員の皆様にご紹介し、私立認可保育園の長い歴史が、先人達の思いが、いかに崇高でありかつ地域の福祉、働く女性へのケア、幼児児童の健全な育成、保育所保育と幼児教育の意義、等、広範囲に渡り地域住民の支えになっていたことをお伝えいたします。



江戸川区は、昭和3年には南葛飾郡でありました。その年に初めて民間保育園が開設されました。その後、東京都の一自治体区となったわけです。

昭和3年12月、東京市社会局保護課が編纂発行した管内社会事業施設一覧には、当時の東京府管内は東京市15区、八王子市、そして8郡が掲載されており、その保育園の内訳は、神田区1、京橋区2、芝区3、麻布区1、四谷区3、小石川区5、下谷区3、浅草区6、本所区7、深川区7、計10区38施設でありました。また、郡では、八郡の中、五郡にあり、荏原郡2、奥多摩郡4、北豊島郡15、南足立郡1、南葛飾郡8、八王子市1、の計31施設でありました。昭和3年の段階で現在の東京都には私立保育園が69施設あったようです。この後、第二次世界大戦が起こり、敗戦後、1947年児童福祉法、1994年子どもの権利条約批准、2012年子ども子育て支援法、2022年こども基本法案提出と、時代は子どもにより寄り添ってきていますが、先達の子どもや福祉に対する情熱が今を作っていると言っても過言ではありません。

昭和55年にこの冊子が上程された時当時の江戸川区中里区長は『私立保育園が児童福祉の理念にたって独自の経営を切り拓き、永年に渡って児童の健全育成に果たしてこられた役割は極めて大きく、その業績は誰もが認めるところであります』と述べています。当時、江戸川区はコミュニティづくりを区の施政方針にあげており、『私立保育園が、いわゆる幼児保育を通じて地域との連帯を深め、そして、よりよい人間形成の場として担っているものは、まさに、コミュニティであると思っています』と彼は保育園が地域と共にある姿を思い浮かべていました。

現在、コロナ禍での私立保育園の現状を鑑みますと、残念ながら地域のコミュニティとなりえません。早く収束して、街中に、元気な子ども達の声が響きわたる、そんな街の中心に保育園がなる事を心から願っております。